

JICAカレンダー 2021 SELECT BOOKS & MOVIE

本の新着情報



『世界の台所探検 料理から暮らしと社会がみえる』

本書は“世界の台所探検家”として各地をめぐる著者がこれまで訪問したインドやオーストラリア、キューバ、ボツワナ、パレスチナなど約16か国の食と旅についてつづったもの。日本ではあまり知られていない各国のレシピや、現地ですべて使われている変わった調理道具なども紹介。現地の人と一緒に料理や食事をした体験談からは、観光ガイドブックとはひと味違った日常や文化を知ることができる。

●『世界の台所探検
料理から暮らしと社会がみえる』

岡根谷 実里 著／青幻舎
2,200円(税込み)

読者
プレゼント
詳細は
p.38へ

『泥んこ、危険も生きる力に ないないづくしの里山学校』

今月号23ページで紹介した写真家の岡本央さんは、長年ライフワークとして「自然と風土に遊び学び、働く」、世界の子どもたちをテーマに撮影を続けている。本書は約10年にわたり、千葉県の本木津社会館保育園が運営する里山学校の様子を撮影したフォトエッセイだ。市販の遊び道具や時間割も、指示を出す大人もいない環境で、たき火や泥遊びなど自然を通して生きる力を育む子どもたち。里山学校を始めた園長などの言葉を交えながら、自然の偉大さと子どもたちのたくましさ伝える。



●『泥んこ、危険も生きる力に
ないないづくしの里山学校』

岡本 央 著／家の光協会
1,540円(税込み)

読者
プレゼント
詳細は
p.38へ

『超えてみようよ! 境界線 アフリカ・アジア、そして車イスで 考えた援助すること・されること』

20代後半に青年海外協力隊に参加し、その後もフィリピンやカンボジア、ルワンダで理科教育向上の国際協力に取り組んでいた著者は、いくたびも国境を越えるなかで差別や偏見などといった“境界線”に直面する。2014年にルワンダで重大事故に遭い、次に出会ったのは“障害”という境界線だった。援助する側と援助される側——さまざまな経験を積み重ねた著者の体験談からリアルな国際協力の現場が見えてくる。



青年海外協力隊事務局
小林広幸事務局長 推薦コメント!

多様性と共生の実現に向けて試行錯誤するなか、手元に届いた村山さんのカラフルですてきな本。その国の香りや食べ物のおいしさまでも伝わってくるようなエピソードに元気をもらえました。そしてタイトル通り「もっと超えていきたいな〜!」と思わせてくれます。海外協力隊や国際協力に関わる方、障害と向き合う方、すべての冒険者と若者たちにお薦めします。

読者
プレゼント
詳細は
p.38へ

●『超えてみようよ! 境界線
アフリカ・アジア、そして車イスで
考えた援助すること・されること』

村山 哲也 著／かもがわ出版
2,200円(税込み)

映画の新着情報

『ブータン 山の教室』



ヒマラヤ山脈の標高4,800メートル地点にあるブータンの秘境ルナナ村を舞台に、都会から来た若い教員と村人の交流を描いた作品。電気やトイレ、ペーパーもない土地で、大自然とともにある日常に幸せを見つけて生きる大人たちと、親の仕事を手伝いながら学ぶことに純粋な好奇心

を向ける子どもたちを、大自然の映像美とともに伝える。2005年の国勢調査で国民の97パーセントが「幸せ」と答えたことなどから「幸せの国」と呼ばれるようになった同国の、シンプルながらも貴重な暮らしから本当の幸せとは何かを問いかける。



●『ブータン 山の教室』

2019年／ブータン／110分
監督・脚本：パオ・チョニン・ドルジ
配給：ドマ
2021年4月3日より、岩波ホールほか
全国で順次公開。

詳細はこちら



©2019 ALL RIGHTS RESERVED